

# きべりはむし

## 第17巻 第1号

### 目 次

武庫川周辺のシンジュサン	新家 勝	1
神崎郡福本における建造物内と周辺および路面上の蜻蛉	森田 真澄	5
兵庫県下にミヤマカメムシを産す	高橋 寿郎	7
西宮市でナガサキアゲハを採集	田中 稔	8
宝塚大橋の甲虫（その3）	新家 勝	9
兵庫県のオサシデムシモドキ	高橋 寿郎	12
西宮市でムネアカセンチコガネを採集	田中 稔	13
西宮市でキョウトアオハナムグリを採集	田中 稔	13
芦屋市におけるヨツボシナガツツハムシの記録について	西 隆広	14
神崎町の昆虫4種	森田 真澄	15
ムモンオオハナノミ神戸市内で採集	高橋 寿郎	16
ソボリンゴカミキリ六甲山に多産	高橋 寿郎	17
フチトリヒメヒラタタマムシ龍野市内に産す	高橋 寿郎	18
ムネアカセンチコガネの記録	高橋 寿郎	19
アカマダラセンチコガネ採集・調査に挑戦を！	高橋 寿郎	20
県関係文献紹介		22
県内学会誌・同好会誌		23
会員異動		24

兵庫昆虫同好会

1989年5月

# 武庫川周辺のシンジュサン

新 家 勝

## I はじめに

父親の勤務の関係で、有馬街道小部峠付近で過ごした幼小の頃、友達も遊び場もほとんどない山中の社宅で、遊び相手は、もっぱら虫たちであった。路傍のハンミョウ、裏山のミヤマクワガタやカナブンたち、溝際のオニヤンマ。そして、捕らえやすく、一際、立派な天蚕蛾は、春から夏にかけてのミスアオ類、晩夏から初秋にかけてのヤママユ、中秋のクスサン、晩秋のヒメヤママユにウスタビガなどで、その豪華さが幼い心を魅了した。そんなある日、薄茶の見慣れない天蚕蛾が、ふわふわと目の前を横切って行った。兄に調べてもらったところシンジュサンとのこと。これが私とシンジュサンとの出会いであり、その優雅さは、いまだに脳裏に焼き付いたままである。

小学生になり、武庫川のほとり、武庫郡大庄村西（現在、尼崎市大庄西町1丁目）へ引越した夏、村のお宮で、立木にぶらさがる多数のシンジュサンを見て、夢ではないかとわが目を疑った。その後ずっと武庫川の近くに住み続ける筆者にとって、この神社、6年間通学した甲陽学院の中庭、甲子園球場前の旧枝川（武庫川支流）堤防、移り住んだ甲武橋付近など、行くところには常にシンジュサンがいた。

このようによくいたシンジュサンも、最近めっきり少なくなったように思われる。そこで、「武庫川周辺のシンジュサン」としてデータをまとめてみようと思っていたところ、今年ちょっとした動機があり、とりまとめたので報告させていただく。

## II 記録データ

### 1. 従来記録

- (1) 1939～1949 武庫郡大庄村西字栄地、市制実施後は尼崎市西字栄地、現在は尼崎市大庄西町1丁目、須佐男神社

発生期には、社務所脇に栽植されている3cmばかりの木の枝に多数の本種がぶら下がっていたものである。当時、木の名前が分らず、本種がいるからシンジュだろうと思っていたが、それはクロガネモチで、今訪ねてみると、周囲166cm(高さ1mのところ)、高さ約8m(目測)もある大木になっている。なお、ここではクスノキで発生していたことがあった。当時の標本は、残念なことに破損してしまった。

- (2) 1945～1950 西宮市今津高潮町、甲陽学院校庭及び旧枝川堤防

6年間、通学した甲陽学院（当初は財団法人辰馬育英会 甲陽中学校、その後は学校法人辰馬育英会 甲陽学院高等学校）の中庭に栽植されていたシンジュ及び校門前の旧枝川堤防に自生するクロガネモチでよく発生していた。なお、1930～1935頃、在学した人の中に、中庭のシンジュでの発生をいまでも憶えている人がいる。

(3) 1964.5.24 西宮市樋ノ口町1丁目

たまたま自宅の庭に飛来したものを撮影した。1954に西宮市樋ノ口町1丁目（甲武橋西詰）に引っ越したところ、この辺りの武庫川堤防や畑の隅に生えているクロガネモチで発生しているのがみられた。昭和40年代になると、住宅が建ち始め、幼虫が子供たちの「おもちゃ」になっていたが、民家が建て込み、虫を嫌う人たちが増えるにつれてドクガと間違えられ、たちまち駆除されることになった。

(4) 1969.10.4 宝塚市安倉 住吉神社、クロガネモチを食う終令幼虫を目撃。

(5) 1974年頃 伊丹市池尻 春日神社

本殿近くにあった背の低いエノキで終令幼虫を見た。本殿が改築された際、このエノキはなくなってしまった。

(6) 1976.6.6 西宮市樋ノ口町1丁目

小学生の頃の標本が、管理不良のため劣化、破損してしまったので、補充のため1♂、1♀を採集し、現在、良好な状態で保管している。

(7) 1979.12.2 宝塚市安倉中2丁目 住吉神社、本殿裏のクロガネモチで繭を目撃。

(8) 1981.8.23 西宮市小曾根町4丁目 白山姫神社、クロガネモチで古い繭を目撃。

(9) 1982.9.3 宝塚市武庫川町 宝塚大橋電燈、1♂を採集（第11巻第1号で報告）。

(10) 1983.1.30 西宮市上之町 武庫川堤防、クロガネモチで繭を目撃。

(11) 1983.7.24 宝塚市美座1丁目 宝塚中学校々庭

クロガネモチで終令幼虫を目撃。

(12) 1984.8.9 宝塚市武庫川町 宝塚大橋電燈、成虫を目撃。

(13) 1986.7.25 宝塚市中山寺2丁目 中山寺、クロガネモチで終令幼虫を目撃。

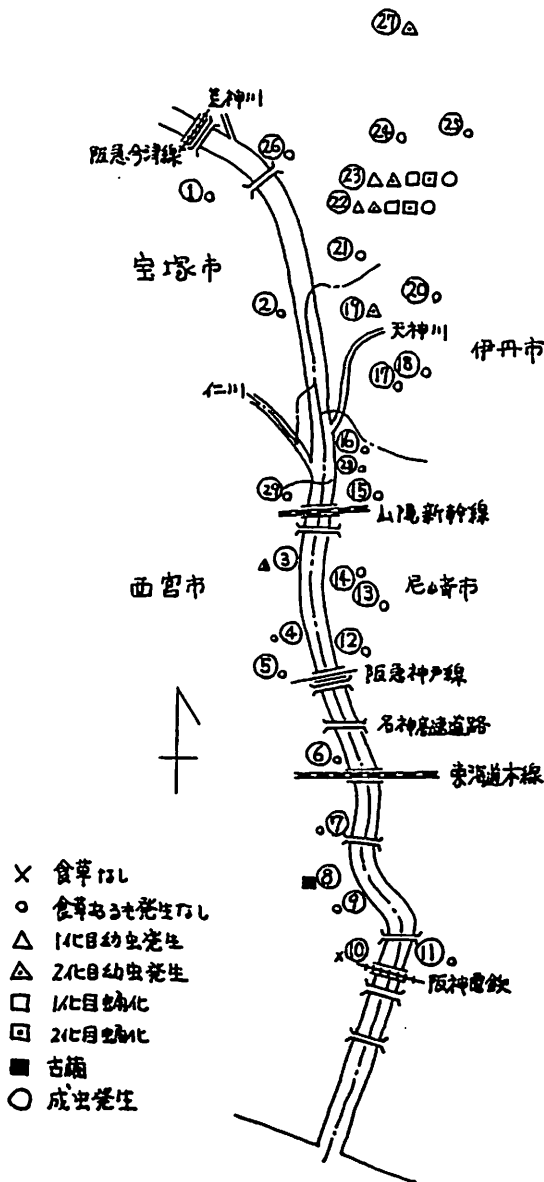
(14) 1986.9.14 安倉北4丁目 愛宕山神社、クロガネモチで終令幼虫を目撃。

## 2. 1988年の記録

本種の成虫は、午後明るいうちに羽化し、夜半から翌夕にかけて交尾した後、夜が来るとともに飛び去るので、余程多く発生しないかぎり、発生場所においてもなかなかお目にかかれない。一方、発生木に幼虫がおれば、食痕や糞を目印に見つけ易い。殊に終令幼虫は、大きな糞を多量に地面へ落とすので見つけのに好都合である。また、この地域での食草は、クロガネモチが圧倒的に多

く、武庫川堤防での成木の自生、付近の社叢林での成木の栽植、植木畑での成木及び幼木の栽植のほか、旧村落を主とした民家での栽植が見られる。そこで、宝塚大橋以南の武庫川の両岸からそれぞれ約1kmの範囲で、民家を除いて食草のある又はありそうなところ約30箇所を、7月中～下旬及び9月中～10月初旬にかけて調べ、2化目の成虫の発生する8月中旬～9月上旬には先に幼虫がおり、その後、蛹化を確かめた場所についても調べた。また、古木や苗木程度の幼木での発生例がないように思うので、近年、発生例のあった木や前記範囲外での発生木についても幹の太さを測っておくことにした。

以下、調査場所を列挙するとともに、発生状況を略図上に示す。



- |                           |                   |
|---------------------------|-------------------|
| ① 宝塚市伊予志1丁目 伊和志津神社        | ⑮ 尼崎市常松2丁目 春日神社   |
| ② 宝塚市高司2丁目 素盞鳴神社          | ⑯ 尼崎市西昆陽3丁目 須佐男神社 |
| ③ 西宮市樋ノ口町1丁目～2丁目<br>武庫川堤防 | ⑰ 伊丹市池尻6丁目 春日神社   |
| ④ 西宮市上之町 武庫川堤防            | ⑱ 伊丹市池尻2丁目 市杵嶋姫社  |
| ⑤ 西宮市日野町 日野神社             | ⑲ 伊丹市西野2丁目 素盞鳴神社  |
| ⑥ 西宮市熊野町 熊野神社             | ⑳ 伊丹市中野北1丁目 素盞鳴神社 |
| ⑦ 西宮市戸崎町 武庫川学院            | ㉑ 宝塚市安倉中2丁目 住吉神社  |
| ⑧ 西宮市小曾根町4丁目 白山姫神社        | ㉒ 宝塚市安倉中1丁目 植木畑   |
| ⑨ 西宮市小松東1丁目 武庫川堤防         | ㉓ 宝塚市安倉北2丁目 植木畑   |
| ⑩ 西宮市小松南2丁目 岡太神社          | ㉔ 宝塚市安倉北4丁目 愛宕山神社 |
| ⑪ 尼崎市大庄西町1丁目 須佐男神社        | ㉕ 伊丹市荒牧 天日神社      |
| ⑫ 尼崎市武庫町3丁目 武庫川堤防         | ㉖ 宝塚市美座1丁目 宝塚中学校  |
| ⑬ 尼崎市武庫元町2丁目 須佐男神社        | ㉗ 宝塚市中山寺2丁目 中山寺   |
| ⑭ 尼崎市武庫元町3丁目 西武庫公園        | ㉘ 尼崎市西昆陽3丁目 武庫川堤防 |
|                           | ㉙ 尼崎市西昆陽3丁目 武庫川堤防 |

次に、本種の発生が見られた食草の地上約1mで測った周囲寸法を列挙する。なお、付記した番号は、前記調査番号を示し、番号を付記しないものは、宝塚市山本東3丁目及び伊丹市荒牧池付近の植木畑、伊丹市鴻池の公園など武庫川からかなり離れた地点で、たまたま見つけものである。

25cm未満のもの なし

25cm以上50cm未満 29cm、30cm、33cm、38.5cm<sup>㉔</sup>、43cm、46cm<sup>㉒</sup>、46.5cm<sup>㉓</sup>、47cm<sup>⑬</sup>、49cm

(計9例)

50cm以上75cm未満 69cm、71cm<sup>③</sup> (計2例)

75cm以上100cm未満 77cm<sup>㉘</sup>、77cm (計2例)

100cm以上 124cm<sup>④</sup>、124cm<sup>⑧</sup>、145cm<sup>⑮</sup>ただし88cmと98cmに分幹 (計3例)

### Ⅲ まとめ

この地域でのシンジュサンは、年2化、それぞれ5月下旬～6月上旬及び8月中旬～9月上旬頃に成虫が現れる。越冬は蛹です。食草は、ほとんどがクロガネモチで、シンジュ、エノキ、クスノキの例もある。クロガネモチは雌雄異株であるが、いずれにも発生し、古木や幼木では余り発生せず、周囲25cm～50cm程度の成木での発生例が多い。また、挿し木や取り木、実生などから成長した新生株だけでなく、伐採後のひこばえから成長したものにも発生し(19の例)、自生品や栽植品の別なく発生するが、他の高木や建物などがなく、道路や田畑などのため開かれた側で幼虫の生育が多く見ら

れる。クロガネモチは、武庫川周辺の各所に分布しているが、上流部に多く、幼木、成木、古木など大きさもいろいろである。下流部では、古木が散在するが、幼木や余り大きくない成木もほとんどなく、全般的に少ない。殊に、阪神電鉄以南では、ほとんど見ることがない。

現在、本種は武庫川周辺の上流部には確実に分布しているが、下流部については、記録と痕跡があるのみである。しかしながら、下流部についても、発生に適した成木が成長するなど条件さえそろえば、発生の可能性はあると思われる。あるいは、目こぼしも当然あることだから、もっと多くの場所で発生しており、その中には下流部での発生があるかも知れない。食草であるクロガネモチは最近人気があり、公園や民家への栽植、それに伴う植木畑での栽植が盛んであるから、食草は増える傾向にある。ところで、本種がよく発生する余り大きくないクロガネモチの成木は、今回発生を確かめた場所以外にも少なくないが、こうした木があるからと言って必ずしも発生しないのは食草の成長度や生えている土地の土質などによる成分の違い、日照などの環境等、様々な条件が適しないと発生しないためと思われる。それにしても、虫イコール害虫、即殺虫剤撒布というパターンでの定着した現在、市街地近くで発生することは、なかなか困難であるが、社寺林や公園、植木畑それに堤防などの人目につきにくいところでは今後とも発生し続けるであろう。

## 神崎町福本における建造物内と周辺および路面上の蜻蛉

森 田 真 澄

最近住宅街にある自宅付近では目に入ることのめっきりと減ってしまったトンボであるが、筆者の日常の行動圏の一角である神崎郡神崎町福本では分布論上特に貴重なもの珍無類な種は発見していないが、人間の極く極く近くにトンボ達が棲息しており目の正月をさせてくれる。そこで人為的な環境変化を多少被ったトンボ達と簡略な環境状況を報告する。

◎グンバイトンボ *Platynemis foliacea sasakii* Asahina と棲息地

<採集例> 1♂., 11—Ⅶ—1987, 1♂ 1♀., 19—Ⅶ—1988, 1♂., 13—Ⅵ—1988.

小規模な工場の南側を流れる細溝や付近の叢に少なからず見られる。交尾例も1988年6月15日正午頃目撃している。この細溝は1984年に開削してできた人工的な水路であるが、コンクリート等で成型はしていない。細溝の南側は丘陵地の傾斜面であり小流と滲出水が少量流入する。細溝の水のPHは

6.1, 電気伝導度は 0.03ms/cm。細溝の東端は小さな積水池となっており少量の工場廃水が流入する。この池のPHは 7.9, 電気伝導度は 0.05ms/cm。丘陵側の植生はアカマツ疎林であり所々アカメガシワ・ソヨゴ・アセビ・ヤブツバキ・コバノミツバツツジが見られ水際にはジャゴケ・ヒノキゴケが乾いた斜面にはツルゴケが見られる。細溝水中にはイモリが居りモリアオガエルの卵塊が水際付近の樹上や崖に見られる。他のトンボとしてシオカラトンボ・オオシオカラトンボ・コシアキトンボ・ウスバキトンボ・オニヤンマ・タカネトンボが見られた。水流は晴天時はほとんど無い。

◎コヤマトンボ *Macromia amphigena* Selys の打地行動と路面静止のトンボ

1987年7月20日午後5時頃、川幅5m程の溪流脇の表面が粗いコンクリート舗装道で1♀が腹端を2回(間隔1秒弱)打ち付けて後、路面に静止したものを採集した。路面上に卵は発見できなかった。晴天であり路面に水分はなかった。水面であれば打水産卵ということになるのかも知れないが、奇妙な行動である。コンクリート道と何か関係があるのだろうか。このコンクリート道路上で採集したトンボを以下に列記する。すべて路面で静止していたものである。

ヤマサナエ *Gomphus melaenops* Selys

1♀., 19—VI—1987。

ダビドサナエ *Davidius nanus* Selys

1♀., 17—V—1988。

オナガサナエ *Onychogomphus viridicostus* Oguma

1♀., 31—VII—1987。1♀., 3—VIII—1988。

コオニヤンマ *Sieboldius albardae* Selys

1♀., 20—VI—1987。

◎家宅侵入のトンボ

山麓に廃屋の農舎ありそこを午前7時頃見回るとなにかしかのトンボが屋内に居ることが多い。以下その一部で採集できたものを列記する。農舎の所有者には立入許可済。

モノサシトンボ *Copera annulata* Selys

1♀., 23—VI—1988。

オオアオイトトンボ *Lestes temporalis* Selys

1♂1♀., 26—ix—1988。交尾中

ミルンヤンマ *Planaeschna milnei* Selys

1♀., 25—VII—1988。

コシボソヤンマ *Boyeria maclachlani* Selys

1♂., 13—VIII—1987。

タカネトンボ *Somatochlora uchidai* Foerster

1♂1♀; 7—ix—1988。

以上5種確認できたが、何故屋内に侵入したのであろうか。夜露を凌ぐ場、迷入、外気との気温差、捕食行動をするため等々、勝手な推測はいくらでもできるが、人的環境がなければあり得ないことであるのは間違いない。なお電燈はない。

◎裏庭のヒメアカネ *Sympetrum pervulum* Barteneff

<採集例> 1♀., 21—viii—1987。1♀., II—X—1987。

知人の裏庭である。ここは山麓の小湿地であり生活廃水の流入はなく良好な環境が保たれている。ヒメアカネはこの湿地を中心とする林中に多数見られる。他のトンボ類は余り見られずミヤマアカネ・ナツアカネ・アキアカネ・キトンボを目撃できた程度である。地域の教人の中老年植物愛好者には知られた場所で湿地の所有者である知人も愛好者には心安くこの裏庭湿地を見学させてくれる。湿地内にはモウセンゴケやイシモチソウの食虫植物、サギソウ・トキソウ・ミズトンボ等ラン類が、岸辺にはサワギキョウ・カキラン・マアザミが、岸に上るとフジバカマ・オケラ・ソヨゴ・コバノミツバツツ・ネズが見られ、岸辺から10m位でアカマツ林に入る。林中にはジュウニヒトエ・キンラン・ヒメヤブラン・フタリシズカ・ヤマジノホトトギス・ムベが見られる。少し離れたススキ群落にはナンバンギセルがシイタケの榎場にはギンリョウソウモドキが見られる。湿地水のPHは7.4。少し水道より地下水が流入しているようである。地下水のPHは8.4であった。播磨地方の湿地はこのところ次々と埋め立てられて行くケースが多いようだが、この場所のように所有者の生活上の信条や価値観によって辛うじて、珍しい生態系を存続できている一例であることを銘記しておきたい。

## 兵庫県下にミヤマカメムシを産す

高橋 寿郎

従来兵庫県産ヒメカメムシ *Rubiconia intermedia* Wolff と同定して来たものの内その大部分はミヤマカメムシ *Hermolaus amurensis* Horváth と同定すべきであると思われるので此処に訂正しておきたいと思う。

ヒメカメムシの方は図説も多くあり稀な種と言われているが、比較的良く知られているカメムシ



である（四国では平地で可成り多く産する様な報告もある）、一方ミヤマカメムシの方はほとんど図説されていない。僅かに日浦勇氏が図説されているのを知るのみである（原色日本昆虫図鑑 下巻 pl. 28, f. 352, p. 103, 1977）

従来ヒメカメムシと同定していた標本を並べて見ると体長が明らかに違う2種が入っており、ヒメカメムシと思われるものは体長 7.5mm であるがミヤマカメムシは6mm 前後で、何と云っても大きな違いは頭の中葉が突出している（ヒメカメムシの方は頭の側葉は幅広く中葉の先をこえるが左右は合うことはない）。小楯板の形態も割合異なると言った諸点である。

ミヤマカメムシの分布がアムールと本州（北半）と言うのがいささか気にかかるのであるが（日浦氏は比良山麓産のものを図示されている）。

まずもってミヤマカメムシと同定すべきであると考え。従って筆者が六甲山上で採集したのもこの種になる（Crude No. 32, p. 25, 1988 の記録は間違っているので訂正させて頂く）。

兵庫県下には両方の種がいることになる。即ち、

ミヤマカメムシ：神戸市六甲山（2 exs. , 20-V-1985, 5 exs. , 9-VI-1989, 3 exs. , 10-VI-1987）. 神崎郡大河内町砥ノ峯（1 ex. , 15-VII-1977）. 宍粟郡赤西（2 exs. , 23-V-1979）. 美方郡扇ノ山 [高橋, 1976] .

ヒメカメムシ：兵庫 [三橋, 1915] . 佐用郡 [井口, 1908] . 宍粟郡音水（1 ex. , 25-VI-1972） .

## 西宮市でナガサキアゲハを採集

田 中 稔

ナガサキアゲハ *Papilio memnon* LINNAEUS を西宮市で採集しているので報告する。

1♂、兵庫県西宮市甲陽園本庄町、31.VIII.1982、田中稔採集、

阪急電鉄甲陽線甲陽園駅附近の大地より流れ出る川の砂地で吸水中のものを採集した。採集した西宮産♂は、沖縄県産同♂に比べて翅長はかわらないが翅表。裏共に青藍色の鱗粉が少なく、翅裏には特に少ない。私の西宮市における本種の目撃例として以下記しておく。

- 西宮市神原、10.V.1985、（つつじの花に訪花中の複数の♂♀、）
- 西宮市仁川百合野町、27.VII.1980、（蝶道をつくって飛翔中の複数の♂）

## 宝塚大橋の甲虫（その3）

新 家 勝

今回は、ヒラタドロムシ科からナガクチキムシ科までについて報告する。

### 11. Psephenidae ヒラタドロムシ科

(1) *Mataeopsephenus japonicus* Matsumura ヒラタドロムシ

V.21.1979 南口2丁目

この橋に多数の電灯が点くようになった翌年、1979年の5月末から6月にかけて、実におびただしい数の本種が飛来した。次の年、1980年には激減したが、その後は余り減ることなく、このシーズンには姿を見せる。

### 12. Elateridae コメツキムシ科

(1) *Agrypnus binodulus* Motschulsky サビキコリ

VI.10.1979 南口2丁目

(2) *Colaulon scrofa* Candèze ヒメサビキコリ

ix. 5. 1979 武庫川町

VII.27.1987 武庫川町

附近の武庫川川敷の石下で、よく見られる。前種同様、ここの電燈に多い。

(3) *Pectocera fortunei* Candèze ヒゲコメツキ

V.29.1979 武庫川町

VI.31.1981 武庫川町

毎年、1、2頭は見られる普通種。

(4) *Alaus berus* Candèze ウバタマコメツキ

VI.25.1985 武庫川町

(5) *Alaus putridus* Candèze フタモンウバタマコメツキ

第9巻第2号、第14巻第1号に記載した通り。その後も、度々、飛来している。

(6) *Ectamenogonus miyako* Kishii ミヤコアラハダチャイロコメツキ

第14巻第1号で、岸井尚氏に発表していただいた通り、大変な珍種。

(7) *Melanotus legutus* Candèze クシコメツキ

VII.8.1981 武庫川町

- VI.12.1983 南口2丁目
- (8) *Melanotus annosus* Candèze クロツヤクシコメッキ  
V.25.1987 南口2丁目
- (9) *Pseudathous secessus* Candèze クロツヤハダコメッキ  
VI.10.1979 南口2丁目  
VI.12.1984 南口2丁目
- (10) *Elater siebolde* Candèze オオナガコメッキ  
VII.26.1983 武庫川町
13. *Cantharidae* ジョウカイボン科
- (1) *Athemus suturellus* Motschulskys ジョウカイボン  
IV.29.1983 武庫川町
14. *Bostrychidae* ナガシンクイムシ科
- (1) *Lichenophanes carinipennis* Lewis セマダラナガシンクイ  
第11巻第1号に紹介した通り。その後も時々、飛来しており、VI.25.1987 1頭、VII. 1. 1987 2頭捕獲した記録がある。市内売布方面のライトトラップにも飛来するそうである。
15. *Coccinellidae* テントウムシ科
- (1) *Harmonia axyridis* Pallas テントウムシ  
VI.18.1984 南口2丁目
16. *Tenebrionidae* ゴミムシダマシ科
- (1) *Gonocephalum terminale* Reichardt ヒメカクスナゴミムシダマシ  
VII.20.1979 武庫川町  
VII.4.1984 武庫川町
- (2) *Gonocephalum coriaseum* Motachulsky コスナゴミムシダマシ  
VI.22.1979 南口2丁目
- (3) *Diaperis lewisi* Bates モンキゴミムシダマシ  
VII.24.1984 武庫川町
- (4) *Menephilus arciscelis* Marseul オオツヤマホソゴミムシダマシ  
VII.10.1979 武庫川町
- (5) *Setenis valgipes* Marseul ユミアシオオゴミムシダマシ  
VII.10.1979 武庫川町
- (6) *Encyalesthus violaceipennis* Marseul ルリゴミムシダマシ

ix.14.1983 南口2丁目

(7) *Cryphaeus duellicus* Lewis ツノゴミムシダマシ

vii.5.1981 武庫川町

vi.31.1983 武庫川町

(8) *Tetraphyllus lunuliger* Marseul ニジゴミムシダマシ

viii.5.1984 武庫川町

(9) *Hemicera zigzaga* Marseul オオニジゴミムシダマシ

viii.4.1984 武庫川町

17. *Lagriidae* ハムシダマシ科

(1) *Luprops cribrifrons* Marseul アラメヒゲブトゴミムシダマシ

viii.20.1987 南口2丁目

宝塚近郊の採集例として、vi.15.1969 大阪府豊能郡東能勢村高台寺道 山下晶氏（能勢の昆虫）がある。

(2) *Luprops sinensis* Marseul ヒゲブトゴミムシダマシ

v.10.1979 武庫川町

(3) *Heterotarsus carinula* Marseul スジコガンラゴミムシダマシ

v.29.1979 武庫川町

vi.13.1980 武庫川町

18. *Melandryidae* ナガクチキムシ科

(1) *Phloeotrya rugicollis* Marseul クロホソナガクチキムシ

vi.1.1979 南口2丁目

# 兵庫県のオサシテムシモドキ

( 兵 庫 県 甲 虫 相 資 料 ・ 2 2 2 )

高 橋 寿 郎

オサシテムシモドキ *Apatetica princeps* (Sharp) は Sharp が “Some Additions to the Coleopterous Fauna of Japan” (Trans. ent. Soc. Part, IV, 1874, p.417-422)の中で新属 *Trygaeus* 新種 *Trygaeus princeps* Sharp として記載された種である。

原産地は Maiyasan Temple, Hiogo である。詳しいデータはないが解説文を読むと割合個体数は多く採集していたのではないかと考えられる。特異な形態をしていてハネカクシ科と言うよりシテムシ科に似ている。体長も 6.5-7.0mm 位でそれ程小さいことはない。本種の全形図を初めて示したのは中根猛彦博士で (新昆虫 Vol. 8, No. 1, p.54, 1955)、シリーズ日本の甲虫 (21) シテムシ科の解説文の中で本種の図を入れておられ、腹部背板の状態からハネカクシであるとされている。その後同博士により原色で図説があり (原色昆虫大図鑑、II・甲虫編、pl. 42, f. 2, p.81, 1963. 学研中高生図鑑 昆虫II, p. 56, 213, 1975)、最近では渡辺泰明氏の原色図説がある (原色日本甲虫図鑑 II, pl. 46, f. 3, p.261, 1985)。

Sharp は原記載の所で “This species occurs sparingly in damp places, in the wood around Maiyasan Temple, Hiogo. In spring, beneath fallen and decaying leaves, and later on, in the summer, it may be beaten off the lower foliage of various shrubs” とのべている。

分布は本州、四国、九州で中根博士によると低山地から山地にかけてすみ、成虫は初夏から夏にかけて山道周辺の石の下などから見いだされるとある。

兵庫県下での産出状況はどうなのであるのか。原産地が Mayasan Temple (摩耶山の切利天上寺と考えられる。現在の寺の位置は変っている) であるから、なんとか摩耶山で採集出来ないものかと調べているのであるが、いまだに採集出来ない。東隣の六甲山上では採集することが出来た (1 ex., 22-V-1987, 1 ex., 4-VI-1987)。兵庫県下での記録はやや古いが氷上郡神楽から 1 ex., 1-VI-1951を山本義丸氏が記録されているだけで筆者は蜂谷幸雄氏と一緒に宍粟郡水谷で 5 exs., (17-VII-1981)を採集したのが県下での記録としてはすべてではないかと考えられる (きべりはむし Vol. 10, No, 1, p.38, 1982)。

中根博士によると、低山地から山地にかけて産するとされているが、兵庫県での記録も原産地摩耶

山の天上寺付近で海拔580m位になるだろうか、六甲山での採集地点はほぼ最高峰近くの地点で、850m位あったのではないかと思われる。宍粟郡の水谷も海拔800m近くであった。氷上郡の神楽は粟賀山(海拔962m)の麓の所であるから、大体500m以上あるのではないだろうか。いずれにしても県下ではやはり山地と言えらる様な所にいる種のようなようである。それと、筆者の採集が全部道のそばの植物の葉上での採集で、石の下とか湿った様な地面、落葉下等の採集が無い。やはり探し方がまずいのかもしれない。どちらにしてもそうざらに見られる種ではない様に思うが、どんなものであろうか。

## 西宮市でムネアカセンチコガネを採集

田 中 稔

ムネアカセンチコガネ *Bolbocerosoma nigroplagiatum* WATER HOUSE を西宮市で採集しているので報告する。

1 ♀、兵庫県西宮市奥畑、21. VI.1987, 田中稔採集、西宮市の満池谷墓地附近にある、越水浄水場の人工池に浮かんでいたものを採集した。

高橋寿郎氏は、“鳥と自然”第38号に摩耶山の甲虫の中に本種を写真入りで報告されておられる。それによれば、神戸市御影産♂(29-X 1956, M. Yoshizaka leg.)とある。御影の地名と共に吉阪道雄氏のお名前は、私が中学生の頃、同氏のお宅で友人と蝶の標本を見せていただき、ダイセンシジミ等を見て虫の採集にますます熱が入った頃を思いだしなつかしい。

## 西宮市でキョウトアオハナムグリを採集

田 中 稔

キョウトアオハナムグリ *Protaetia lenzi* Harold を西宮市で採集しているので報告する。

1♂、兵庫県西宮市門戸岡田町9。Ⅷ。1988、田中稔採集、

阪急電鉄今津線の門戸厄神駅附近の道路上に静止していたものを採集した。本種の採集は、私は西宮市では初めてである。

## 芦屋市におけるヨツボシナガツツハムシの記録について

西 隆 広

本誌第16巻1号で高橋寿郎氏が発表されたヨツボシナガツツハムシ *Clytra arida* Weise の報告<sup>1)</sup>に接し、この美しいハムシは私も確かに採集したことがある、と思って標本を調べてみると1頭あったので高橋氏に御連絡した。<sup>2)</sup> ただ、データをお伝えしていなかったのもので、そのデータを①に示す。

ところで高橋氏の報告によれば、本種は日本海側の豊岡市の例を除いて、概ね標高400m以上の地域で記録されているということである。一方①の採集地である城山（国土地理院発行の地形図では「鷹尾山」と記されている。しかし、一般には「城山」と呼ばれている）は標高263mで400mより100m以上低い。豊岡市の例<sup>3)</sup>もあるが、瀬戸内側での生息標高の資料となると考え、本年（1988年）、発生期と思われる6月に2度程、同山城を調査したが、再発見できなかった。

②は芦屋市教育研究所指導主事の古市景一氏の採集によるもので、城山では現在も生息していることが充分考えられ、来年以後も調査していく予定である。

③は芦屋川に沿った谷筋の登山道での記録である。当日は、石宝殿方面を訪れての帰途、芦屋川本流沿いの登山道へ入る付近（標高460m）で飛翔中の本種を1頭採集、以後注意深くハギ類を中心に調べた結果、距離約850mの間（標高460m～380m）の間で計6頭を得た。飛翔中の1頭を除きすべてハギから得た。その中でハギの葉を摂食していたのは2頭であった。また1頭はシマサシガメにとらえられていたもので、採集時には死んでいた。

ハギの葉上等で採集した本種は1株1頭で、隣接するハギに1頭ずつの例はあったが、2頭以上はなかった。

同地には8月20日に再度出かけたが、成虫出現期を過ぎたものか、1頭も見ることができなかった。

参考資料<sup>2)</sup>で報告されている Mt. Rokko, Okuike は芦屋市の奥地とすると、同地は芦屋川流域内である。従って本種は芦屋川上流域にいくつかの生息地をもっていると考えられる。

末筆ではありますが、貴重なデータの提供をいただいた古市景一氏に深甚なる謝意を表します。

<本種記録>

- ① 1 ex., 24. VI. 1984 芦屋市城山 , 西 隆広
- ② 1 ex., 4. VI. 1985 芦屋市城山 , 古市景一
- ③ 6 exs., 3. VII. 1988 芦屋市芦屋川上流 , 西 隆広

<参考文献>

- 1) 高橋寿郎、ヨツボシナガツツハムシ六甲山系逢山峽に産す：きべりはむし、第16巻第1号
- 2) 高橋寿郎、ナガツツハムシ2種の記録：きべりはむし、第16巻第2号

## 神崎町の昆虫4種

森 田 真 澄

神崎郡神崎町福本において県下での文献記録が少ないと思われる昆虫を採集しているので報告する。

◎トゲナナフシ *Neohirasea japonica* Haan

1 ♀, 19—IX—1987。1 ♀, 23—VIII—1988。1 ♀, 1—XII—1988。

山道や空地の体色と類似した色彩の地面にはほとんど動作することなくいることが多い。ある虫好きの高校生からの伝聞ではあるが、神崎町岩屋にも棲息するらしい。

◎ツシマクロスジヘビトンボ *Parachauliodes continentalis* Van Der Weele 1 ex., 13—VI—1988。  
燈火採集。

◎ヘビトンボ *Protohermes grandis* Thunberg

1 ex, 10—VIII—1987。燈火採集。

普通種であろうが当地ではあまり見ない。市川町屋形在住の老婦人によると、本種幼虫をカワムカデと呼ぶそうである。

◎ダイセンコブヤハズカミキリ *Parechthistatus gibber daisen* Miyake et Tsuji

1 ♂, 1—V—1987。ヤマザクラの大木の根際にいた。亜種 *daisen* の特徴が亜種 *gibber* の特徴より顕著に現れているので亜種 *daisen* とした。



## ムモンオオハナノミ神戸市内で採集

(兵庫県甲虫相資料・223)

高橋寿郎

1988年6月29日神戸市西区伊川谷で(雨が少し降っていた)、まだ充分開花していないノブドウの花の上に多数のベニボタル *Lycostomus modestus* (Keisenwetter) が来ており、その多くが交尾をしているのに出会った。その地点で蜂谷幸雄氏がムモンオオハナノミ *Macrosiagon nasutum* (Thunberg) の1♂を採集された。大変大きく、体長は13mmもあった。

ムモンオオハナノミの記録は従来県下からはほとんど知られていなかったと思うのであるが、ただ岩田久二雄博士は1927年7月19日、池田市の宮の原西方猪名川原において採集されたキボシトックリバチの巣の中から、このムモンオオハナノミの幼虫を見出され、その後その生態解明にとりくまれた貴重な報文(関西昆虫学会々報 9号, p.44—53, 1939)並びに名文“薄幸の寄生者ムモンオオハナノミ”(自然観察者の手記, p.328—336, 1975)の中で、詳しく生態を述べておられる。地図で見ると、猪名川原であるから伊丹市下加茂の所と接している。所謂、行政区分であるから両方にまたがっている地域であると考えられるが、この貴重な記録以外、兵庫県での記録と言うのは知らない。博士ものべておられるが、このムモンオオハナノミを野外で採集することは大変難しく、やはり蜂の巣の中を探さなければと述べておられる。ムモンオオハナノミの寄生が見つかるのはドロバチ科の7種であるとのこと(ムモンオオハナノミの生態に就いては榊田長氏の貴重な報告“キボシトックリバチとその寄生昆虫の生態”昆虫 Vol. 15, No. 4: 153—170, 1941もある)。

オオハナノミ科のものは色々のハチとかシバンムシ、カミキリの幼虫に寄生するものが多いが、野外での成虫の採集は非常に困難である。県下でオオハナノミ科の記録はこのムモンオオハナノミ以外に3種が知られているだけで、筆者もこの種以外オスグロオオハナノミ *Macrosiagon cyaniveste* Marseul を採集しているだけである(いずれも花から得ている。1♀, 23—Ⅷ—1977, 神崎郡大河内町砥峯。1♂, 1♀, 17—Ⅷ—1981, 宍粟郡波賀町水谷。1♀, 25—Ⅷ—1956, 養父郡氷の山)。

大変野外で採集し難いものだけに此処に記録しておきたい(体長が大きいことは既に岩田博士が述べておられる様に、スズバチの幼虫に寄生したものはキアシトックリバチ幼虫に寄生したものの十倍以上の体重であり、この様な現象は寄生昆虫の通性であるとのこと)。

末文だが、この貴重な標本を御恵与下さった蜂谷幸雄氏に厚く御礼申しあげる。

# ソボリンゴカミキリ六甲山に多産

(兵庫県甲虫相資料・224)

高橋 寿郎

1988年8月27日恒例の神戸生物クラブ鑑定会が神戸大丸屋上で開催され、その席上へ岡村八郎氏がわざわざソボリンゴカミキリ *Oberea sobosana* Ohbayashi の1♂ (9-VII-1988, Okamura leg.) を持参され、本年六甲山上で多数採集出来た(約30数頭。勿論、何日かにかけて)。それでこの1♂を進呈するとのこと。思いもかけない御恵与で喜んでいる。

ソボリンゴカミキリは、その名の如く九州の祖母山産標本に基づいて大林一夫氏が記載されたカミキリムシで、(*Longicornis*, 3:761, 1956)。現在では本州(ヤブツバキ帯上部-トウヒ帯)、四国、九州に分布していて、かならずしも珍しい種ではないようである。

兵庫県下での記録は多紀郡篠山町王池公園[辻, 1972]。美方郡村岡町兎和野高原[佐藤, 1987]が知られているだけで、割と珍しい種のようにであり、六甲山系からは勿論初めての記録になると考えられるので、此処に報告しておくと共に標本を御恵与下さった岡村氏に厚く御礼を申しあげたい。

さらに、筆者の所有の *Oberea* 属のカミキリムシを調べて見た所、次の様に本種を見出すことが出来たので同時に記録しておきたい。いずれも六甲山系になると考えられる。

神戸市北区藍那(1♀, 18-V-1982)、逢山峽(1♀, 2-VII-1982, 1♀, 1-VII-1986, 1♀, 8-VII-1987)

(AUG.1988)

# フチトリヒメヒラタタマムシ龍野市内に産す

( 兵 庫 県 甲 虫 相 資 料 ・ 2 2 5 )

高 橋 寿 郎

フチトリヒメヒラタタマムシ *Anthaxia rubromarginata* Miwa et Chûjô は1935年松村松年博士が札幌円山にて、1918年5月31日採集された標本に基づいて、三輪勇四郎・中條道夫両博士によりヒメヒラタタマムシ *Anthaxia proteus* Saunders の変種として原色図をつけて記載された種である (昆虫界 Vol. 3, No.17, p.276, pl. 105, fig. 7, 1935)。その後両博士による“日本産鞘翅目分類目録、Part. 1. 吉丁虫科、1936”の中でも (p.39) 同じく変種扱いにされ、分布を北海道としている。

1948年には黒沢良彦博士により“日本産 *Anthaxia* 属に就いての覚書”と言う論文 (Ent. Rev. Vol. 1, No.1 p. 1—4, 1948) の中で、フチトリヒメヒラタタマムシとして新しく和名を与えられると共に独立種にとり扱われ、三輪・中條両博士が1935年にはこれまたヒメヒラタタマムシの変種として記載された (札幌産) *viridomarginata* Miwa et Chujo もフチトリヒメヒラタタマムシのシノニムであるとされ、アムール地方から記載された *A. prinorjensis* Obenberger, 1938 もシノニムであるとされた。そして、このフチトリヒメヒラタタマムシは本州にも稀であるが、産するとされ黒沢博士は山形市盃山1♂と伊賀正汎氏が大阪府妙見山の1頭を検されたと言うことに言及され、同時に朝鮮忠清北道清州産の1頭を検し得たとされている (上記大阪府妙見山産は1955年に出版された原色日本昆虫図鑑甲虫編の中で伊賀氏により、原色図説されている。pl. 23, f. 491, p.76. 採集は1943年5月となっている)。

1970年黒沢博士による“日本産タマムシ科解説(7)”の中で本種は Subgenus *Haplantaxia* Reitter, 1911 ヒメヒラタタマムシ亜属に属する種として解説され、“日本では稀でクヌギ、クリ、アベマキ、コナラなどに集する”とされている (甲虫ニュース, No. 9, p. 3—4)。

原色図説は夫々原色昆虫大図鑑第2巻 (甲虫編) (pl. 77, f. 31, p. 154, 1963)、原色日本甲虫図鑑 (Ⅲ) (pl. 2. f. 10, p. 10, 1985) の代表的図鑑に出ている。可成りはっきりした色彩をしているので、まず同定を間違うことはないと考えられる。

分布は北海道、本州、九州、対島、朝鮮半島、シベリア東部とあり可成り広く産するようである。日本ではどの様に産地が知られているのか、一々文献をチェックしてないのでわからなかった。ただ、

そんなに普通にいるタマムシではないのではと思われる。

さて、兵庫県下での本種の記録はと見るに、筆者が調べた範囲では仲田元亮氏による川西市大和（1 ex., 7—VI—1968, 仲田, 1978, 1982）の産地が知られているだけであった（他に記録があれば御教示頂ければ幸いである）。

1988年6月4日蜂谷幸雄氏は、龍野市神岡町で野バラの花に来ている多くのヒメヒラタタマムシに混じて本種の2♂1♀を採集された（標本全部筆者保管）。県下の記録がほとんど無い様な状況であるので、此処に新産地として報告しておきたい。クヌギ、アベマキなどにつくとあるが（黒沢, 1985）ヒメヒラタタマムシ風のは、成虫が花に来ることが多いことは良く知られていて、ヒメヒラタタマムシなども花で多く採集出来る。それらに混じてどうもいる様なので、ヒメヒラタタマムシが普通種なるが故に見落されているのではないかと思われる。もっと注意すれば産地はふえるのではないかと考えられる。

## ムネアカセンチコガネの記録

（兵庫県甲虫相資料・226）

高橋寿郎

前号（第16巻、第2号）に“神戸市内産のムネアカセンチコガネ”と題して神戸市内産を中心にした記録を発表させて頂いたが、その後2～3の会員の方々から県下での本種の記録を御教え頂いたので、此処にまとめて報告しておく。

新家 勝氏より

神戸市東灘区青木一丁目新明和工業構内の大型照明灯の下で、朝の出動時路上でもがいているのを採集された由（7—VI—1969）。

西 隆広からは

芦屋市教育研究所指導主事の古市景一氏の標本の中に、芦屋市立山手中学校で採集されたムネアカセンチコガネがあった由。さらに、永橋嘉之氏からも1980年代に三木市、養父郡氷の山、多可郡加美町で採集しているとの連絡を頂いた。

結構、県下各地での採集例があるようで大いに喜んでいる。手許にお持ちの標本があれば、是非記録として発表して頂きたい。

(西官市での記録は本誌上に田中 稔氏が発表しておられる)。

## アカマダラセンチコガネ採集・調査に挑戦を！

高橋 寿郎

アカマダラセンチコガネ *Ochodaeus maculatus* Waterhouse, 1875 は Waterhouse により “Shimabara. One specimen from a dead dog, May; a second from Tagami, an a bottle set with meat” を産地に図を入れて新種記載された種である (Trans. Ent. Soc. London, p.95-96, p. 1. III, f. 1, 1875)。Lewis も “Kiushu” を産地に記録された (Ann, Mag. Nat. Hist., XVI, p.385, 1895)。その後、加藤正世博士は “東京附近で獲られるが稀である” とし、分布を本州に原色で図説された (分類原色日本昆虫図鑑、第八輯, pl. 41, f. 1, 1933)。さらに、きれいな図をつけて詳しく解説された (昆虫界 Vol. 5, No.45, p.782-783, 1937. 武蔵野昆虫誌, p.173-174, 1938. 共に命名者名をどうしたわけか Westwood と間違っておられる。図鑑の方は正しい。ただし、武蔵野昆虫誌の方では産地を石神井・駒場とし、さらに本種は珍種と見るべきであるが、東京では時々採集される。神奈川県稻田登戸の標本があり、高尾山でも発見した。出現期は春と秋のごとくで、地上低く活発に飛翔する場合が多い。東京以外では余り採集されない様であるとある。分布は、本州、台湾となっているが恐らく、本州、四国、九州に分布しているだろうとされているが、原記載は九州産によっているのであるからこの説明はいささかおかしい)。

台湾での産は、三輪勇四郎博士の “台湾産昆虫目録 (翰翅目)” (台湾總督府中央研究所農業部報告, 第55号, p.275, 1931) に地名が掲げられている。

1950年の日本昆虫図鑑 (中根猛彦博士解説, f. 3780, p.1310) では、分布は本州、九州、動物の屍体、腐肉にくるが稀となっている。

四国からの記録は、1953年の “石鎚山と面河溪の昆虫相” の中で記録されたものが初記録になる “Kanmon, 1 ♂, VI-18, 1952, 稀” とあり、写真をつけて紹介されている (写真の解説では♀になっている) (四国昆虫学会々報 Vol. 3, Suppl. p. 68, pl. 8: 3)。

新潟県と佐渡島の記録は中根猛彦・馬場金太郎両博士のものがある（市立長岡科学博物館報 No. 4, p. 2, 1960）。

一応現在の知見では、分布として本州、佐渡島、四国、九州、台湾となるのであるが、本州、九州での産出状況はどうか文献類を詳しく調べていないので良くわからないが、いずれにしろ日本産コガネムシの中ではかなり珍しい種と言えそうである。少なくとも個体数が少ない種であると考えられる。図説は案外と多くあるので、どの様なコガネムシかは大方の方は御存知と思われる。日本にはこの種は次の様な亜種が知られており、黒沢良彦博士による分類学的論文に詳しく解説されている。

オキナワアカマダラセンチコガネ subsp. *carrinatus* Y. Kurosawa, 1968（奄美大島・沖縄島）。  
イシガキアカマダラセンチコガネ subsp. *interruptus* Y. Kurosawa, 1968（石垣島、西表島：台湾）（Y. Kurosawa, Bull. natn. Sci. Mus. Tokyo, Vol. 11, No. 3, pp. 242—243, 1968）。  
そして従来コガネムシ科の亜科 Ochodaeinae と扱われていたが、1988年発表の石田正明、藤岡昌介氏の“日本産コガネムシ主科目録”（LAMELLICORNIA, Suppl）では独立の科 Ochodaeidae と扱ってられる（この目録では平戸島も分布地に加わっている）。

そこで、兵庫県下における本種の産出状況はどんなであろうかと言うことであるが、県下からの記録と言うのは筆者が知っている範囲では次の3頭しかない。即ち多可郡笠形山（1 ex., 26—IX—1965, 1 ex., 27—IX—1959, K. OKAMOTO leg.）、加美町三国岳（1 ex., 31—V—1959, R. Inomata leg.）。採集者である岡本 清氏と猪股涼一博士の御好意で全部拝見させて頂いたし、岡本氏の採集されたものの内1♀（27—IX—1970）は同氏の御好意で御恵与を受け、現在筆者が標本を保管している。兵庫県下の記録はこの3頭以外筆者は知らない。或いは採集されているのが他にもあるかも知れない。それらについて御教示を頂ければと思う。

本種は加藤博士が記録しているように春と秋に採集出来るので、多分年2回の発生ではないか、よく飛び廻る様でもあるとある。野村 鎮氏も大図鑑の中で（1963）よく飛ぶ種であると記されており、林 長閑博士は6月ごろから出現し夕方によく飛ぶ、幼虫は腐植物か腐肉を食べるものと思われると記しておられる（学研中高生図鑑，昆虫II，1975）。

最近東京の藤岡昌介氏からの御教示によると、本種が新潟県下で焼酎（しょうちゅう）トラップにより（河原などで——）案外と採集出来ているとのこと。そして、目下生態解明に取り組みたいと考えているとのことであった。

この方法は初めての知見であり、大変貴重な情報でもある。そこで、この方法も取り入れて県下の本種の分布状況調査にどなたか挑戦して頂けないものかと、ここに拙文をつづって見た次第である。勿論、筆者自身もなんとか挑戦して見たいと考えているが、一人でも多くの方々により調査が出来れば、案外多くいる種だとわかったりしないかと期待もったりしている。（兵庫県甲虫相資料・227）

## 県関係文献紹介

○ 相坂耕作著 播磨の昆虫 (のじぎく文庫・1988)

姫路昆虫同好会の相坂耕作氏が神戸新聞姫路・西播版に連載されたものに加筆されて“のじぎく文庫”の昭和63年度配本として出版された。第1部が播磨に産する昆虫107種の紹介、第2部に虫にまつわる民俗や言い伝え、民話やわらべ歌、そして播磨の昆虫方言などを収めてある。写真も豊富だし(せっかくの写真、色々と具合の悪い場合もあるかもしれないが、データ、少なくとも撮影場所は明示してはしかった)一般向けむにわかりやすく紹介されていて楽しく読むことが出来る。四六判・240ページ(カラー口絵8ページ)。定価1,200円で一般書店で販売している。尚、奥谷禎一博士が序文を書いておられる。

○ 蝶研出版。蝶類年鑑 1988。552p.

1昨年“蝶類年鑑 1987”が出版され、今回(1988年12月)が2冊目の発行となる。日本産蝶類文献の総整理と題するなかなか貴重なものである。勿論、兵庫県産蝶に関する文献も収録されているし、本誌に発表になった報文も収録されている。蝶を研究する方々には貴重な文献になると思われる。大変な労力をかけて採算のとれる出版ではない様に思われるが、頑張っは是非つけてほしいものだと思う。

○ 宝塚の自然 1988 第3号。

兵庫県自然保護協会宝塚支部・宝塚自然に親しむ会 会報。

今号から会報名が上記のようにつけられた。奥谷禎一博士による“ホタルと自然保護”が発表されており、大変参考になる。昆虫の記事は他に無いがなかなか楽しい会報である。

○ 佐用ライオンズクラブ。千種川の生態、第16集 [水生生物調査] (昭和63年秋) A 5, 22p. (1989年3月刊)。

表記の通り昭和63年秋におこなわれた千種川の水生物調査の報告である。主に地元の学校が中心になって調査をしておられ、継続調査となっている。県立昆虫館の内海功一氏を始め、地元の学校の先生が技術指導をしておられる。

(T)

## 学会誌・同好会誌・連絡誌

( 1988・X～1989・III )

兵庫生物 (兵庫県生物学会)

Vol. 9, No. 5 (III・1989)

兵庫陸水生物 (兵庫陸水生物研究会)

No.31 (XII・1988) . No.32 (I・1989) .

鳥と自然 (兵庫野鳥の会)

No.52 (III・1989)

姫昆サロニュース (姫路昆虫同好会連絡誌)

No.83 (X・1988)

Crude (大阪昆虫同好会々誌)

No.32 (X・1988)

のせ (大阪昆虫同好会連絡誌)

Vol. 17, No. 4～15 (II・1988～XII・1988)

Vol. 18, No. 1 (I・1989) .

### <催し物>

法西定雄氏から同氏が主催者として写真展 [日本の蝶 1] を西宮市立市民ギャラリーで開催の案内を頂いたので、1988年11月24日見せて頂いた。賛助出品者に石川盤雄、夏秋 優氏他があり、後援として蝶研出版、(株)兵庫フジカラーとなっていた。

全部で50点内45点が法西氏撮影のものであった。撮影場所は兵庫県下でのものが多いが、沖縄のものとか長野県でのものもあった。

蝶の場合、写真撮影と言うのもなかなか難しいが面白い対象だと思われる。その点甲虫は余り見覚えがしないものが多いと言うか、小さいものが多いのでより難しいと考えられる。なにせ採集と撮影の両立は筆者の様に不器用なものにはまず駄目である。久しぶりに美しい蝶の写真を観賞させて頂いた。

(T)



<訂正>

本誌前号 (Vol. 16, No. 2) に次の様な誤りがありました。訂正させていただきます。

	誤	正
p.35, 1番下の行	小林祐和	小林裕和
p.45 (6)	トラフトンボ	タカネトンボ
p.55. 下より14行目	ヒゲナガカワトビケタ	ヒゲナガカワトビケラ

## 編集後記

- 本年も暖かい冬といいますが、雨の多い冬でした。寒くないのは助かると一概に喜んでばかりいられないのかもしれませんが。
- 相変りませず原稿が無いものですから申し訳ない会誌になっております。記録することが大切だと思います。些細な記録でもお気軽に投稿して下さい。短報歓迎です。  
印刷代も郵送料も何もかも値上りになり、いよいよ同好会誌の継続出版も違った面から苦しくなってくるようです。
- 最近では全般的にその年度内での会誌の発行が順調に進んでいない傾向が強い様です。特に原記載の発表される学会誌など、実際の発行と表示発行日との違いがあるのは注意して頂かねばと思います。  
その点、当会誌は今迄キッチリと年間5、11月出版を実行してきたと、いささか自負しております。次号は11月にお手許にとどけられるよう努力致します。
- 本誌がお手許にとどく頃には採集期に入っていると思います。御活躍を御祈り致します。

(T)

---

きべりはむし 第17巻第1号

平成元年5月25日発行

発行：兵庫昆虫同好会

〒652 神戸市兵庫区氷室町1丁目44 高橋寿郎方

振替 神戸7-26646

印刷：(株) 文 尚 堂

〒652 神戸市兵庫区下沢通3丁目4-11

---